

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立立川高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 教務生活指導部主幹（事務局長）、教務生活指導部（記録）、経営企画課長代理 計3名
- (3) 内部委員の構成
統括校長、副校長、経営企画課長、主幹教諭(教務生活指導部担当)、進路主任、計5名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
PTA会長、PTA役員、芙蓉会（同窓会）会長、七生特別支援学校長、育て上げネット事業担当執行役員、育て上げネット社会連携事業担当、立川市子ども家庭部子ども育成課長 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年5月30日（金曜日）内部委員5名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明（部活動・行事の様子、進路準備近況、併修制度等）意見交換
 - 第2回 令和7年9月26日（金曜日）内部委員5名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告（自立支援活動について）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和7年12月5日（金曜日）内部委員5名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告（行事など）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年9月26日（金曜日）内部委員2名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和7年12月5日（金曜日）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

| | | | | |
|---------|---------|---------|--------|-----------|
| ・10.11月 | 全校生徒 | 対象：100人 | 回収：71人 | 回収率：71.0% |
| ・10.11月 | 保護者全員 | 対象：100人 | 回収：30人 | 回収率：30.0% |
| ・ | 月 地域・住民 | 対象：実施せず | 回収：人 | 回収率：% |
| ・10.11月 | 教職員 | 対象：12人 | 回収：10人 | 回収率：83.3% |
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備など
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・前年度から肯定的な意見が増加した項目の割合は、生徒アンケートが40%、保護者アンケートが19%であった。生徒・保護者の学校に対する満足度を来年度以降も維持・向上させていきたい。
 - ・教員アンケートにおいては、前年度から否定的な意見が増加した項目の割合が69%にも及んだ。教員の働き方改革や生徒の育成方針を中心に改善させていく必要がある。
 - ・教員は、「わかりやすい授業」、「疑問や質問に的確に対応」、「一人一人を大切にした進路相談」、「体罰や暴力をなくす取組」について、自負している。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・生徒アンケートにおいて、昨年度と比較し9項目において肯定的な意見の割合が減少しているが、その内7項目においては6%未満の減少にとどまっている。このことは、今年度は新入生はおらず、昨年度と同じ生徒が回答しているため、何とか現状維持をしていると言える。普段から生徒の意見を傾聴し、わずかな変化を見逃さずに未然防止に努め、今後も生徒の実態に合った支援・指導が必要である。
- ・保護者アンケートについて、肯定的な意見の割合が13項目で減少したが、そのうち11項目は6%未満の減少にとどまった。このことは、今年度は新入生はおらず、昨年度と同じ保護者が回答しているため、何とか現状維持をしていると言える。保護者からの高評価を今後も維持するために、更に分かりやすく情報開示をしていく必要がある。
- ・教員アンケートについて、肯定的な意見の割合が11項目で増加、2項目において100%維持し、3項目において肯定的な意見の割合が減少、そのうち2項目が2%未満の減少に留まった。具体的な問題点を洗い出し、解決していく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒アンケートにおいて、項目(2)立高生活は充実、項目(4)分かりやすい授業の2項目が肯定的な意見の割合が過去10年間で最高であった。特に、項目(4)「分かりやすい授業」については、生徒・保護者・教員の全てにおいて肯定的な意見の割合が85%以上であった。これらの結果は、授業を大切に、学校が生徒の自己実現の場であるように教員・生徒・保護者が一丸となって取り組んだ大きな成果であることが客観的にも認められた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・保護者アンケートにおいて、項目(13)適切な健康や安全に関する指導について、肯定的な意見の割合が過去10年間で最低となった。このことは、アンケート実施前後で特別指導が複数発生したことが要因と思われる。既に改善に向けて取り組みを始めているが、継続的に学校が安心・安全であるように組織的に改善を図っていく。(15)体罰や暴力をなくす取組について、生徒と保護者・教員のアンケート結果が対照的になった。このことは、生徒が感じている教員との信頼関係にギャップがあることが要因である。生徒と信頼関係構築に向けて、良い方向に意識の差が縮まるように改善を要する。
- ・教員の働き方改革等については、改善傾向は見られるものの、依然として課題が生じている。どの業務に負担がかかっているかを明らかにし、改善していく必要がある。
- ・地域資源などをもっと積極的に活用し、生徒の進級率・卒業率の向上を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を明示し理解を得る工夫をする。
- ・生活指導については校内組織改編を図ると共に、今まで以上に外部機関、保護者との連携を強化する。
- ・積極的に地域、自治体（立川市など）の取り組みに協力し、生徒の利益向上を図る。

(2) 学習指導

- ・「主体的・対話的で深い学び」及び「探究的な取組」を推進し、「分かる・楽しい」授業改善を進める。
- ・開発研修、自主研修等の積極的派遣を通して、研究成果を現場に還元する。
- ・ICTリーダーを中核に、ICT機器を整備し、積極的な相互授業観察を行い、工夫した授業を推進する。

(3) 特別活動

- ・PTAと芙蓉会（同窓会）の支援を受けながら学校行事、部活動の更なる充実を図り生徒の参加率を向上させる。

(4) 生活指導

- ・校外外における喫煙行為を組織的に未然防止する。虐待・いじめ防止対策委員会の機能充実を図る。

(5) 進路指導

- ・自立支援継続活動において、YSW・SC、NPO法人育て上げネット等の外部機関と連携を密に取り、きめの細かい就労支援と福祉支援を更に充実させる。

(6) 健康・安全

- ・学校給食の喫食率の維持、向上を図る。給食運営委員会の設置・点検指導により課題の改善を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| | | | | | | |
|------|------------|---------------|---------------|------------|-------|-----|
| そう思う | 多少そう 思う | どちらとも 言えない | あまりそう 思わない | そう思わ ない | 分からない | 無回答 |
| 3 | 2 | | | | | 2 |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】

8 その他

- ・保護者アンケートの回答率の向上を図るため、アンケート実施を授業公開後に設定するなど対策したが保護者の回答率は微減した。今後も更に回答・回収方法を改善する必要がある。
- ・校内組織を活性化、改編し、学校長のリーダーシップのもと、課題の改善を積極的に図る。